

登録コード:MH510100 開講年度:2026		授業科目区分	学科共通専門科目 必修	
科目名	病理病態学 【20M以降】 Pathology I			
担当教員	太田 浩良 木村 文一			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	全専攻/ 1 年 後期 月曜・ 1 時限			
単位数、講義室	2 単位	多目的講義室 保健学科 2 1 1 講義室	遠隔授業科目	該当
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		各種疾病の病態と発生機序を理解できる。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		各種疾病の概念及び組織変化を理解できる。	
	MH25カリ・保健・看護、MH23カリ・保健・看護			
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		各種疾病の概念及び組織変化を理解できる。	
	MH25カリ・保健・検査、MH25カリ・保健・理学、MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・検査、MH23カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		各種疾病の概念及び組織変化を理解できる。	
	MH25カリ・保健・看護、MH25カリ・保健・検査、MH25カリ・保健・理学、MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・看護、MH23カリ・保健・検査、MH23カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・作業			
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		各種疾病の病態と発生機序を理解できる。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	疾病の病態と発生機序について遺伝子レベルの知見もふまえながら学ぶ。 本授業は、看護学専攻では1年次前期に学んだ「人体の構造と機能 ・ 」、検査技術科学専攻、理学療法学専攻および作業療法学専攻では1年次前期に学んだ「系統解剖学」および「生理学」の知識を前提としています。看護学専攻では2年次後期の「人体の構造と機能（臨床病態学）」、検査技術科学専攻では2年次前期の「病理病態学 」および3年次前期の「病理組織解析学」、理学療法学専攻と作業療法学専攻では2年次前期の「内科学」との内容が相補的に学ばれます。そして、本授業の内容は全専攻において4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関に病理専門医としての実務経験を活かして講義を行います。			
授業計画	第 1回（ 9月28日 ） 病理学の概要，細胞・組織の傷害と修復，退行性病変 第 2回（10月 5日） 物質沈着と代謝傷害 第 3回（10月14日） 循環障害 第 4回（10月19日） 炎症 第 5回（10月26日） 免疫 第 6回（11月 2日） 先天異常と遺伝子異常 第 7回（11月 9日） 新生物 第 8回（11月16日） まとめ・中間試験 第 9回（11月26日） 循環器系の疾患 1（血管） 第10回（11月30日） 循環器系の疾患 2（心臓） 第11回（12月 7日） 呼吸器系の疾患 1（非腫瘍性疾患） 第12回（12月14日） 呼吸器系の疾患 2（腫瘍） 第13回（12月21日） 消化器系の疾患 1（食道・胃） 第14回（ 1月 4日） 消化器系の疾患 2（腸） 第15回（ 1月18日） 消化器系の疾患 3（肝臓・胆管・膵臓） 授業アンケートの実施 第16回（ 1月25日 ） 期末試験			
授業の進め方	スライド教材を使用した講義を主体に教授する。 オンライン（ビデオオンディマンド）講義とする。 毎回課題（問題集の演習）を課し、講義の理解度の確認を行う。			
テキスト，教材，参考書	【教科書】 疾病のなりたちと回復の促進 1 病理学（系統看護学講座 専門基礎）医学書院 問題集：パワーアップ問題演習 病理学（サイオ出版）			
成績評価の方法	レポート（問題集）・中間試験・期末試験の結果に基づいて、総合的に成績を評価します。			

成績評価の方法	総合評価の配分は、レポート（問題集）10%、中間試験が30%、期末試験が60%とし、総計の60%以上の得点を合格とします。中間試験は、第8回（11月16日）に、実施します。中間試験では、病理学総論の講義内容に基づいて、疾病の病態及び発生機序の理解度を確認します。期末試験では、循環器、呼吸器と消化器を中心に病理学総論の内容を含み、生態の機能と病態の理解に必要な臓器及び組織の構造及びこれらの臓器にみられる疾病の病態及び発生機序について理解度を確認します。 中間試験および期末試験の結果については、実施後にフィードバックします。
成績評価の基準	成績評価の判定基準は、下記の通りとする。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 なお、これらの採点の基準は、行動目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性等を指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している」と判定します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 教科書での予習（事前学修）用に、次回の授業のレジメをeALPSにアップロードします。所要時間30分程度。 【事後学習について】 毎回、講義内容に該当するレポート（問題集の実施）の提出を課します。所要時間30分程度。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間60時間（4時間×15回）＝90時間 *以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問、相談には講義中及び研究室にて対応します。 質問への対応：太田 浩良 hohta@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 12:10～13:00 保健学科中校舎 太田研究室